

(技術名) 加工向けの紫カンショ新品種「ちゅらかなさ」の特性							
(要約)「ちゅらかなさ」は、「ちゅら恋紅」と同等の肉色、肉質を有し、 <u>春植え栽培</u> では同等の <u>収量</u> 、 <u>秋植え栽培</u> では「ちゅら恋紅」より収量が優れ、加工向け <u>紅イモ品種</u> として有望である。							
農業研究センター・作物班					連絡先	098-840-8505	
部会名	作物部会	専門	育種	対象	カンショ	分類	指導
普及対象地域							

〔背景・ねらい〕

近年、沖縄県では、好調な観光業を背景とした菓子原料等の加工向け紅イモ（紫カンショ）需要の高まりから、鮮やかな紫の肉色と加工に適した肉質を有する「ちゅら恋紅」の栽培が広がり、カンショ栽培面積の70%以上を占めるまでに普及が拡大している。一方、実需者や生産者からは、加工向け紅イモの安定した生産に向けた気象災害や病害虫リスクの分散といった観点から、複数品種での生産を望む声も強い。そこで、「ちゅら恋紅」を補完する品種として、農研機構で育成された加工向けの紫カンショ新品種「ちゅらかなさ」の特性を評価する。

〔成果の内容・特徴〕

1. 「ちゅらかなさ」は、「ちゅら恋紅」に比べ、草勢が強く、春植え・秋植えの両作型でつる重が重いという特徴を持つ（表1、2）。
2. 加工向けに出荷される100g以上の収量と塊根数は、春植え栽培で「ちゅら恋紅」と同等、秋植え栽培では「ちゅら恋紅」より多い（表1、2）。
3. イモの外観は、条溝や裂開、変形が多いため、「ちゅら恋紅」に比べ、やや劣る（図、表1、2）。
4. 加工適性の目安となる蒸しイモの特性は、肉色、肉質、繊維等、「ちゅら恋紅」と同等であり、「ちゅら恋紅」と同様、加工向け紅イモ品種として有望である（表3）。

〔成果の活用面・留意点〕

1. 生産者や実需者の加工向け紅イモ品種の選定や栽培指導の基礎資料として活用する。
2. 島尻マージ圃場におけるマルチ栽培の結果である（畝幅85cm×株間20cm, 1区30株の3区制）。
3. いも専用肥料（琉球肥料㈱）を2.5袋/10a（窒素:4.5kg、リン酸:4.5kg、カリ:9.0kg）、全量基肥で施用した。
4. 「ちゅらかなさ」の育成者は農研機構であり、種苗の入手にあたっては、農研機構ウェブサイトの情報等を参考に、市販の種苗を購入、もしくは、農研機構と原種苗提供契約を結び、有償譲渡を受ける必要がある。
5. 自ら種苗を増殖し、販売等譲渡する場合には、農研機構と利用許諾契約を結ぶ必要がある。
6. 病害虫防除のため、種芋や苗の消毒、苗床の土壌消毒、農薬散布等を適切に実施する。

[具体的データ]

表1 春植え¹⁾における特性調査(2017～2019年の3ヶ年平均)

品種名	つる重 kg/a	形状	皮色	肉色	条溝 %	裂開 %	変形 %	外観	収量 ²⁾ kg/a	同左 指数	塊根数 個/a	1個重 g
ちゅらかなさ	277*	短～紡錘	紫	濃紫	2	0	31	中	164 ^{ns}	112	1016 ^{ns}	159 ^{ns}
ちゅら恋紅	186	短～紡錘	紫	濃紫	1	3	15	やや良	147	100	928	157

¹⁾:4月植付、9月収穫(5ヶ月栽培) ²⁾:100g以上の塊根収量

注):つる重、収量、塊根数、1個重について、*は5%水準で有意差あり、nsはなし(スチューデントのt検定、n=3)

表2 秋植え¹⁾における特性調査(2017～2019年の3ヶ年平均)

品種名	つる重 kg/a	形状	皮色	肉色	条溝 %	裂開 %	変形 %	外観	収量 ²⁾ kg/a	同左 指数	塊根数 個/a	1個重 g
ちゅらかなさ	73*	長～紡錘	紫	濃紫	6	8	56	やや劣	199*	144	1171*	166 ^{ns}
ちゅら恋紅	39	紡錘	紫	濃紫	1	4	29	やや良	138	100	855	157

¹⁾:9～10月植付、4～5月収穫(7ヶ月栽培) ²⁾:100g以上の塊根収量

注):つる重、収量、塊根数、1個重について、*は5%水準で有意差あり、nsはなし(スチューデントのt検定、n=3)

表3 蒸しモモの特性(2017～2019年の3ヶ年平均)

品種名	春植え ¹⁾					秋植え ²⁾				
	肉色	肉質	繊維	食味	ブリックス ³⁾	肉色	肉質	繊維	食味	ブリックス ³⁾
ちゅらかなさ	濃紫	やや粉	中	やや劣	3.3	濃紫	中	中	やや劣	5.9
ちゅら恋紅	濃紫	やや粉	中	やや劣	4.7	濃紫	やや粘	中	やや劣	6.2

¹⁾:4月植付、9月収穫(5ヶ月栽培) ²⁾:9～10月植付、4～5月収穫(7ヶ月栽培)³⁾:蒸しモモ試料に3倍量の水を加え、ミキサーで磨砕後にブリックス計で測定

図 「ちゅらかなさ」(左)と「ちゅら恋紅」(右)の塊根(春植え、2019年9月収穫)

[その他]

課題ID:2013農010

研究課題名:次世代シーケンスを用いた活動型レトロトランスポゾンの挿入多型解析による
サツマイモ高密度連鎖地図の作成と立枯病およびネコブセンチュウ抵抗性マーカーの開発
予算区分:受託(農業・食品産業技術総合研究機構)

研究期間:2013～2019年度

研究担当者:宮丸直子、謝花治、嘉数耕哉

発表論文等:なし